

平成 22 年度第 4 回みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 議事録	
開催日時	平成 23 年 2 月 23 日（金）午前 9 時 30 分から 11 時 30 分
開催場所	緑区役所 2 階 第一会議室
出席者 （敬称略）	村井祐一（委員長）、松岡美子（副委員長）、市木智子、松浦正義、中島光明、吉田英二、鈴木正二、小林伸子、長嶋昭美
欠席者 （敬称略）	柳下利一
議 題	(1) 素案意見募集の実施結果について（報告） (2) 第 2 期計画（案）について（検討） (3) その他
資 料	(1) 次第 (2) 資料 1 委員等一覧 (3) 資料 2 素案意見募集の実施結果について (4) 資料 3 第 2 期計画（案）
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・素案意見募集の実施結果について確認を行った。 ・第 2 期計画について、委員からの修正意見を事務局にて検討を行った上で、案のとおり承認する。 ・委員会の名称について、「策定」の文字を削除し、平成 23 年度からは「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」とする。
議 事	<p>1 開会（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定数確認 <p>2 議事（委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長挨拶 <p>（村井委員長）先日行われた緑区社会福祉大会では、地区で行われている取組を発表していただきました。多くの方々が地域で活躍していらっしゃいます。そのような活動をきちんとした形で支えていくための、また、一緒に力を合わせていくための一つの指針として、第 2 期計画をまとめることができました。計画が作られたことで、単なる反省ではなく、少しずつですが評価という形で改善につなげていくことができます。反省というのは後ろを振り返ってばかりですが、評価と改善というのは、客観的な目標に向かって少しでも状況を進めていくことです。進めた中でできたこと、できなかったこと、なぜできたのか、あるいはできなかったのか、思いもよらぬ効果がでたもの、または、予定になかった新しい発見というものをきちんと整理をしながら、単年度もしくは複数年度で物事を確認し、次のステップではどのようにしていくのかという形で、成長型の推進ができていくと思います。取組を実施する際には、より詳細なつくりこみが必要な場面もあるかと思っています。今回、きちんとした目標という形でこのような計画を示すことができたこと、そして地区別計画ができたことは画期的なことです。生活に密着した問題を発見し、解決できる仕組みを地域の中でつくっていきこうというのは地域福祉の最大の目的であり、その第一歩であると思います。生活の問題をお互いに理解し合える仲間の中で、相互扶助とか連携、協同の仕組みがより小圏域でつくっていけるといこと、今回は特に中学校圏域である連合自治会圏域で議論していただくことができたというのは画期的なことだと思います。このような</p>

計画を、地域の基盤である連合自治会、地区社協、民児協を中心としながら、NPOとかボランティア団体を巻き込み、地域の皆さんがそれぞれの地区で豊かな地域、安心して住める緑区を作っていただくための何らかの支えに育っていきけるように推進して行きたいと思います。委員の皆さまのお力を頂いて、このような形でお示しすることが出来ました。ありがとうございました。

(1) 素案意見募集の実施結果について（報告）

平成22年12月から平成23年1月末まで行った素案への意見募集の実施結果について、資料2に沿って事務局から説明

（説明概要）

- ・件数は26件
- ・頂いたご意見の主な内容、緑区の考え方等を説明
- ・資料を緑区ホームページに掲載し、区民へ報告を行う

（村井委員長）前向きに力を貸していこう、計画に賛同するからもっと浸透させていこう、地域にもっと顔を出そうという思いを頂いているように感じます。推進の際にはこれらの意見を、それぞれの地区にお返しして検討に含めていくということ、それから全体の区計画の中でも参考にさせて頂きたいと思います。例えば、No.16のご意見について、具体的に参加する立場でスローガン等を見直して欲しいとあります。確かに訴求力、つながりをつくろうと私たちはいいますが、そのためにはどうしたらいいかということをもっと具体的な行動内容できちんとした目標を出してくれるといいのではないかと、それはそれで大いに参考になるかと思えます。代案を出して頂きつつ、それを担っていこうという意欲を頂いたものかと思えます。これは区計画、もしくは地区別計画の中で、いろいろな形でスローガンを出す際に参考になるかと思えます。大変、いいご意見が多いかと思えますので、これからの推進の参考にさせていただければと思います。

（事務局）ご意見を頂いているのは、60歳代や70歳代の方が多く、若い方に興味を持っていただいていないのではないかと印象があります。件数については、区民の皆様身近に感じていただける計画となっているかというところで気になる点もあります。

（村井委員長）地域福祉保健計画というのは、生活に直結している介護保険計画というようなものと比較すると、ゴールが見えにくかったり、数値的に表現が難しいものも含まれていて、また、結果が出るのに時間がかかったりする面もあります。そのため、ある意味では後回しにするところがあるかもしれません。現実に地域で活動できる実体としてはリタイアされた世代が中心となるのが日本の福祉の現状となっている中で、地域の本当の実情を、リアリティをもって感じる方々がそのくらいの年代になってしまっています。子育て世代は働くことと子育てで精一杯、やっと落ち着いた頃に自分がどんなところに住んでいるかに初めて気がつくというようなことが多くなっています。30代、40代の人達、さらには10代、20代の人達に伝えていく機会があればいいかと思えます。頂いたご意見には中学生を大切にしていこうというご意見もあり、期待が持てます。地区別計画の推進の中でも、若い世代の参加をどうするか、世代交代という言葉の本質論は若い頃からこのような問題について、知識や経験があるということの裏返しというところもありますので、大事なポイントとして整理しておきたいと思えます。

(松岡委員) No. 26 のご意見について、40代の方の話がありますが、コミュニケーションを取りにくいのは高齢者だけではなく、若い単身者の方の問題でもあるかと思えます。小さい頃から地域に目を向けていないと、一定の年齢になってからコミュニケーションを取り始めるのは難しいと思えます。地域の方々と話をしなくても普段の生活はできる、というようになると、病気になったときなどに他に連絡するところがないという状況になってしまいます。自治会や民生委員の方々が最後のところを担っているわけです。そのところの大変さはわかりづらい面であり、このご意見を拝見し、本当にそうだなと感じたところです。こういう機会は身近ではあまりありません。自治会が最終的な確認や、安否の確認、発見や連絡というようなことも担っているわけです。人生の最後を見届けてくれることを行っているというようなことが伝わっていないと、ではそのようなことを誰が行うのかという話になるかと思えます。先ほどの話に関してですが、子育て世代の方々がわかっていないわけではなく、知らないだけだと思います。子供が赤ちゃんのうち、周りが声をかけてくれます。それが地域の人とつながるチャンスとなります。そこで地域とつながっておくと、先々、子供の成長を誰かに見てもらっている、見守ってもらっているということにつながり、さらには自分も今度は他の子供たちを見る側につながっていくということで、大きな機会かと思えます。先ほどのご意見に書かれているようなことは数多くあり、ネグレクトも増えていきますし、虐待という形もあります。その虐待に至る前にもっと早く声をかければよかったという地域の皆さんの声があるということは、そこがどのように知り合っていけるのかという点であり、それこそがこの「みどりのわ・ささえ愛プラン」に集約されているような気がします。このプランをどのように伝えていくかが委員を含めての大きな課題かと思えます。

(村井委員長) 自殺も1日約90人、未遂を含めると1日に約1,000人近いという実体が報告されている状況です。孤独死について、新宿区が行った定義では「二週間毎程度に見守る者がいない、独居又は高齢者のみ世帯の高齢者」とあります。地区別計画をスタートして、生活上の実際問題を本当の意味での「自治」という形で解決していく仕組みをどうつくるのか、地方分権であり、自治であり、自立でありといったところを促すための計画としてPRしていかなければならないと思えます。行政が何かをしてくれるということの立場ではなく、行政とともに何を自分たちで解決していくのかというような自治の意識を高め、自分たちの地域、自分たちの生活をまず自分たちで見直すというところを大事にするということかと思えます。犠牲者を出してから気が付くということがとても多いです。これから先、このようなことを続けていい訳はありません。一人一人の生活を、地域の状態という形で捉えられる視点が必要で、地域を客観的に分析・整理し、それを行政や地域の支援者が整理して住民に伝えていく、地域に介入していくといったことが必要かと思えます。

(松浦委員) No. 19 の「自治会を主体とした活動では住民の声が行政に届けにくい」というご意見が気になります。今回の地区別計画は自治会などを中心に作りあげてきた計画です。

(村井委員長) 自治会自体、これからの運営について、例えば、単年度で役員が交代してしまう、場合によっては半年交代の輪番制となっているといった悩みを抱えている状況があります。そのような意味でのご意見なのか、個別の問題としてのご意見なのか、わかりづらいところがあります。決して声が届けにくい訳ではな

いと私は思います。もし自治会のようなシステムを作っていないと、集団として
のもしくは地域としての意見が上がっていかない、常に行政対個人の関係となっ
てしまい、よくない状況が生まれてしまいます。

(松岡委員) No. 11 のご意見に、自治会に加入されていない方とのつながりに関する
ご指摘があります。そのような方が多い地域での問題もあるのかもしれませんが。
自治会だけではカバーできない部分もあるという状況になりつつあるということ
のご指摘かもしれません。

(村井委員長) 自治会に入っていない方の声が届けにくいという点は確かにそうかも
しれません。ともすると、そのような方が見守り対象となっている事例や、地域
から孤立化する事例が報告されてもいます。地区別計画の策定に関わった方から
言えば、単に自治会中心に自治会活動のみを支援するというのではなくて、そ
のようなものを越えたネットワークをつくっていかうというのが地区別計画で
す。実行性の部分については、これからの推進のところで進めていく必要があり
ます。このようなご意見も大事にしていきたいと思います。

(長嶋委員) 私が住んでいる地域の自治会に「みどりのわ・ささえ愛プラン」の活動
をお知らせしたいと思い、連絡していますが、反応が返ってきません。お忙しい
ところかと思いますが、私のように退職して元気な高齢者が地域には沢山います
のでぜひ活用したらどうですかと提案しているところです。民生委員さんとのや
りとりも不足している気がします。

(村井委員長) これから生活レベルでの地区別計画を、自治会を巻き込み、地区社協
が持つつながりを大事にし、地域ケアプラザを活かして進めていくことになりま
す。このような取組は、今後さらに小地域化していくと考えていますが、福祉だ
けでなく地域の生活資源を考える機会を増やしていく、そうしたことがまずはス
タートになると思っています。これから、評価をしていく、推進をしていく時期
に入っていきますので、結果を出していく必要があると思います。この計画に書
いた事柄は1年後、2年後そして3年後に見直す機会を必ず作って、少しでも「変
わったね」と感じられるようにしていきたいと思います。

(2) 第2期計画(案)について(検討)

資料3に沿って事務局から説明

(説明概要)

- ・第2期計画の新たなイメージとして、表紙やロゴマークを作成
- ・第3回委員会で確定した素案に加え、挨拶文や委員会規約を追加
- ・概要版、リーフレットを発行予定
- ・区長の確認を行った後、区連会で報告し、3月22日に記者発表を予定

(松岡委員) 子育て支援拠点「いっぼ」では、子育てサポートシステム事業の事務局
とほっとホームステイ・サポート事業の窓口を行っています。校正段階で可能で
あれば、拠点紹介欄に事業名を追加していただければと思います。

(事務局) 事業名については、P.107「基本目標2」の「具体的な取組」欄で紹介して
いるところです。拠点紹介欄での追加については印刷業者との調整を行います。

(吉田委員) 今回策定した計画を実行していくにあたっては、自治会がどのような取
組を行うかによるところが大きいと思います。そのような意味合いから、挨拶文
の欄に、連合自治会長会会長の決意というか挨拶を入れて頂きたいと思います。

これから地域の中でさまざまな取組を行っていくわけですが、策定にあたっては連合自治会が中心となって行ってきたという点もあるかと思います。自治会活動は、計画の推進の根幹であると考えています。連合自治会や単位自治会の取組の度合によって、この計画が実現していくのか、そのままに終わってしまうのかということもあるかかとも思います。どのような形でも何らかのことをしたほうがいいかとも思います。

(事務局) 冊子への挨拶文の追加については印刷業者との調整を行います。また、頂いた内容については、その形態も含めて前向きに対応したいと思います。

(村井委員長) 地域の主な方々の共通の決意のような表明があれば、強い基盤になるということかとも思います。

(市木委員) 今回の冊子はいい表紙だと感じていますし、手に取りやすいものかとも思います。また、地区別計画においては、これまで発行された通信も掲載され、地区支援チームの連絡先が記入されている点は大きなポイントかとも思います。この計画に興味を持った方が意見を伝える先がある、計画が与えられるだけではなくアクションを起こせることにも配慮がある、ということかとも思います。まだ足りないということをおっしゃる方もいるかもしれませんが、地区毎の連絡先を記入してある点は細かな配慮だとも思います。私は障がいの分野で活動しております。障がいのある方々がどのようにしたら地域とつながっていけるかという点において、この「みどりのわ・ささえ愛プラン」が糸口になるというところを、障がいのある方に広く知っていただくことによって、進めていけるかどうかというのが大きなポイントになるのではないかとも思います。自分が住んでいる地区の取組を知り、自分の子供たちのことを相談でき、もしかしたら何とかなるのではないかと思う、そのような手がかりになればと思います。心身連の会合などでもこの計画を紹介していきたいとも思います。この計画が広く地域の皆さんに伝われば、何か変わるのではないかと期待を持つことは出来るのではないかとも思います。

(村井委員長) それぞれの地区別計画に興味を持った方が連絡を持てる相手がいる、地区支援チームが事務局としてこのような役割を担っているという点はすばらしいことかとも思います。

(事務局) 緑区においては地区担当制をとっております。例えば白山地区の場合は税務課長が地区担当となります。地域でのいろいろなご意見につきまして、地区担当課長が承るといった形となりますのでよろしくお願ひします。

(鈴木委員) 今回の表紙は、この冊子を見たくなる気持ちにさせてくれるもので、とってもよくできていると思います。子供から高齢者まで、さまざまな人を表現してあり、地域の方々から見ると、自分たちもこの中の一員であるというイメージができて興味がわくと思います。また、地区別計画では策定委員の名簿のほかにも、委員の写真が掲載されていて、自分たちの計画であるという気持ちにつながり、取組にも力が入ってくるかとも思います。また、連合自治会からの文章もご検討いただければと思います。地域のさまざまな方を巻き込んだ計画にしたいとも思います。

(中島委員) 東本郷地区の地域名の表現については、人口規模を勘案すると、「東本郷1～6丁目」「東本郷町」の順が適当かとも思います。地域に住んでいるものとしてもそのほうが妥当かとも思います。

(市木委員) 基本目標の「具体的な取組」欄に掲載されているもののうち、「お結び会」の説明箇所から「勉強会」を削除してください。「お結び会」に参加していますが、

この会では、さまざまな意見を交わしながらのサロンの集まりですので「勉強会」的なことをやるかどうかは決まっておられません。「交流活動など」のみでお願いします。「お結び会」は、自治会などの地域活動の隙間を埋めたいとの思いで取り組んでいる集まりですのでご理解をいただければと思います。

(長嶋委員) 私が住んでいる自治会にも再度、呼びかけをしたいと思いますが、何か掲載させていただくことはできますでしょうか。

(事務局) 今回の計画は、地域の目標、これまでの経過や取組を掲載したものです。これから計画の推進となりますので、呼びかけをしていただくことはぜひお願いしたいと思います。

(村井委員長) 地域の実情にあわせて調整を行う必要があるかと思います。地域の全ての方々の意見を掲載しているわけではありませんので、この計画を周知しながら調整し、一緒に行うということで巻き込んでいく道具という位置づけかもしれません。書き込んだもののみが実施されるのではなく、推進をするなかで生活問題の実状にあわせたものを取り込みながら、この計画を一つのたたき台として進めていく中で、当然ですが、1年2年と経過する中で、新しい課題が出て、大きな地域の変革があつて対応していかななくてはならないというような状況が生まれるかもしれません。地域での推進の中で調整していく部分かと思います。

(松岡委員) 第4章に掲載の各施設に対する連絡先は案内されていますでしょうか。

また、所在地の説明もわかりやすく表現したほうがいいかと思います。

(事務局) 今回の冊子では巻末の「問い合わせ先」に住所や電話番号を掲載しております。また、本文中の記載方法については、印刷業者と調整を行います。

(村井委員長) 以上のご意見を踏まえた上で、計画について委員の皆さまからご承認を頂きたいと思います。

(3) その他

ア 計画策定にあたって委員からのコメント

(村井委員長) 計画策定に携った委員の皆さまから、ご感想を頂きたいと思います。

(吉田委員) 委員の皆さまのご努力でいい指針ができたと思っています。今後、各地区でどのように取り組むか、区域においてもどのように取り組むかということ、また具体性をどのようにしていったらいいのかということを考えております。私の地区である東本郷地区でも、計画に掲げた目標が実現するように精一杯、努力して行きたいと思っています。そのためにより一層、力を入れていきたいのは自治会の活動、そして老人会の活動だと思っています。今回の東本郷地区の計画においては、かなり細かいところまで盛り込むことができました。この内容には、昨年1月に行った地区の全世帯で行ったアンケート結果をまとめた提言書を反映させています。素案の意見募集において東本郷地区からはご意見がなかったのはそのようなこともあったからかと思うところです。第2期計画の特徴はこの地区別計画の策定にあるかと思います。その中心となった連長会に、推進策定委員会の委員長や副委員長が出席して、計画の説明や推進に向けての決意などを述べられるなど、これまでの第1期計画とは異なる点を自治会に対して何らかの形で説明することがよいのではないかと思いますのでご検討いただければと思います。

(鈴木委員) 推進策定委員会に参加し、委員の皆さんからご意見等を頂き、勉強をさせていただきました。この計画を進めていく段階で、地域の母体として中心とな

るのは自治会です。この自治会と連携して進めていけるかどうかは今後の課題だと思います。住民の皆さんを巻き込んで、それをいかに目に見える形にしていくか、ということがポイントになるかと思います。紙ではなかなか目に届きません。イベントなどを工夫して、計画を地域の皆さんにご理解いただいくことが、いい地域づくりにつながるのではないかと思います。

(小林委員) 私は地域ケアプラザの地域活動交流事業部門のコーディネーター職として参加させていただいております。この計画がまとまったということで安心してるところです。委員会では、各地域での検討の様子や、全体的にどのように取り組んでいるのかという点を知ることが出来ましたので、大変勉強になりました。プラン自体を知らないという方が多いということ、それから、アンケートをとっても年代的に50代以上の方はご関心があるけれども、若い方になかなか反響がないというところを考えますと、これから進めていく中で広報活動が大切だと思います。地域ケアプラザの広報誌のように連合自治会を通じて単位自治会に配っていただいたり、受け取った広報誌を多くの方の手を渡って全戸配布または班回覧を行っていただいたりなど、さまざま活動を自治会にお願いしている状況です。こうした一方的なお願ひだけでなく、これからは逆に、地域の身近な存在であるケアプラザが窓口になりまして、ケアプラザの中でその地域のことをPRする、または広報活動するというのもできるかと思います。自治会が得意な分野とケアプラザで出来ることというのがあるかと思うので、こうした連携をしていくことが広報活動の一つのポイントになるのかなと思います。地域ケアプラザの職員が地域にお願いするばかりではなく、皆さんが地域に戻られて、ケアプラザにこのようなことをしてほしいとぜひ声を出していただくとよりよい広報活動になるかと思います。

(長嶋委員) 公募委員として参加して、貴重な経験となりました。私自身が地域ではいろいろなことにかかわっておりますが、活動のようなことは行っておりません。今後は、実際に現場を拝見し、地元の自治会にPRを行い、協力を求めて行きたいを思います。特に地域の若い方に地域福祉の理解をお願いしていきたい、つながっていくことができる方法を考えていきたいを思います。

(中島委員) 今回、地区別計画策定のプロセスが、委員会の皆さまが地域の課題を網羅しながら、真剣に議論されて地域のための計画としてまとめられたという形となり、大変素晴らしいことだったと思います。これからは計画の推進にウェイトが移ります。従来、この地域福祉保健計画というのは、自治会組織にとっては自分たちの役割かどうかと感じられた点もあったかと思いますが、今回の策定においては連合自治会長が旗振りの役割を担われた、少なくとも単位自治会長はそのような認識をもたれたというのが現在の段階だと思います。地域が何をすべきなのか、「自分ごと」なのだという点を地域の皆さんにご理解いただけるかが根幹であり、一生懸命に取り組んでいかなければならないことだと思います。

(松浦委員) いろいろと勉強させていただきました。いま最も悩んでいるのが推進の組織をどのような形で作ろうかということです。30人以内の構成ということで区から依頼が来ていますが、どの程度の規模がいいのか、どのような方にご参加いただいたらいいのか、連合自治会長とも相談しながら進めています。策定に係わっていない新しい方が参加されて、まずどのように理解していただけるか、進め方をどのようにしたらいいのかを考えているところです。

(市木委員) 私は障がい者支援の活動をしておりますので、これまでどうしても障が

い者の分野だけに係わることが多く、自治会や地域活動の分野について係わることが少なかったのですが、この推進策定委員会に参加することで、視野がとてども広がったような気がします。横浜市では「将来にわたるあんしん施策」を取り組んでおりまして、その中で後見的支援という、親亡き後に子ども達を地域で支えていただけるような取組がありますが、この取組と「みどりのわ・ささえ愛プラン」とが非常によくリンクしています。いずれの取組も「地域で支えあう」という点で同じ位置、立場であるということを感じています。委員会に参加したものとして、障がいのある方々と行政、地域の方々とつながり役、コーディネーターのようなどころができたらいと思っています。障がいのある方のご相談があれば、プランからのご紹介やケアプラザのご案内などができるかと思っています。

(松岡委員) 人は皆、赤ちゃんから始まり、いずれ年をとっていくとすれば、誰しもが係わる問題ですし、自分のことと捉えられるかどうかの問題だと思います。障がいに関しても、障がい児の親だけでなく、自分もいつ障がいを抱えるかわかりませんし、人ごとではないと思います。家族が支えることはもちろんだと思いますが、地域の方とか行政の支援がないと支えきれいことがあるかと思っています。そのような想像力を自分たちが認識できるかということを考えていかなければいけないと思います。そのようなことは子供の頃から、親の姿や、近所の人たちの姿を見て、学んでくることもあると思います。地域の支えあいというのはそういうちょっとした積み重ねのことであって、いきなり何かを計画したからといってできるものではないと思います。時間もかかりますし、おそらく5年、10年かかってみるもので、すぐに成果がでるものではないかと思っています。まず計画をつくること、そして行動することで問題点が見えてきますし、まず動いてみなければ始まらないということをお願いしていくことなのかなと思います。何かが起こったときには、人は人に支えられているということがわかりますが、普段は実感がわからないことだと思います。緑区の全ての方が熱心に取り組むかということとはなかなか難しい問題で、その中の一人でもそのように思っただき、行動するということだと思います。その行動してくれた人を支えていく仕組み、支援する人を支える仕組みがないと、行動されている自治会や民生委員といった方々が支援疲れで行き詰ってしまうかと思っています。このような支援されている方に一言声を掛け合えるような、支えあいの街になっていければと思います。

(村井委員長) 委員の皆さまのご発言、そして事務局、各課の職員の方々のご協力によって計画が形になりました。これは頭の中で考えているだけでは出来上がらない内容です。地域の皆さんの声があったからこそ形になり、その経過の中で多くの方々を巻き込ませていただいた中で、各自の気づきがあり、問題意識が高まり、主体性や担い手という形になっていくのだと思います。そのような意味ではこれからも地域の方々と共に一緒に考え、進めていく計画でなければ誰にも認めてもらえないものとなってしまいますので、地域に根ざすような、地域の多くの方々の意見を反映しながら進めていくこと、そして次の推進のステップでもその姿勢を崩さず、より多くの方に参加していただくような方法を検討していく、地域の皆さんの声がこの計画を推進していく力、エネルギーとなります。自治会、地区社協、民事協などの団体の力も非常に重要なものかと思っています。このような地域の方々が連携・協同し、自らの地域生活に対してきちんとした目標をもって連携していくことが大事かと思っています。いままでの自治会の福祉活動といいますと、募金活動のようなイメージを持たれている方が多かったのが実態かと思っています。

そのような状況が、現在では、地域のことを考えて、計画を立て、福祉問題を解決していこうという流れに変わっていくということはすばらしいことだと思います。そのためには地域の方の声を聴かなければいけないという仕組みに変わりましたので、この流れを止めないで、多くの方が声を出すと地域がよくなるのだという手ごたえ感につなげていく必要があるかと思います。私自身も地元の自治会や青年部等に参加し、つながりを作った中で、このような豊かな関係があることに気がつき、これまで見えなかった地域が見えるようになりまし、生活の豊かさを実感すると逆に課題も見えるようになりました。このような私の経験からも、自分たちのまちは自分たちの手で住みやすくできるのだということを地域の皆さんにも実感していただきたいと思います。

イ 「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の名称について

- ・ 検討の結果、委員会の名称から「策定」の文字を削除し、新年度からは「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」に変更する。

ウ 事務局からの報告事項

- ・ 地区別計画推進委員会の設置、及び委員の選出について、3月上旬を目途に連合自治会に依頼中（第1回の地区別計画推進委員会は5月中旬から各地区において開催を予定）
- ・ 緑区地域課題チャレンジ提案事業において、平成23年度第2次募集を行い、地区別計画の推進を支援する。（4月に募集説明会を予定）
- ・ 事業内容の周知、区民へPRが可能となるように、区役所職員を対象として「みどりのわ・ささえ愛プラン」に関する研修を実施予定
- ・ 平成23年度の委員会開催時期については、第1回を8月、第2回を3月に予定

（村井委員長）プラン策定にあたり、事務局並びに行政職員の皆さまのご支援に対し感謝申し上げます。また、委員の皆さまにもあらためて御礼を申し上げます。計画策定に携わっていただいた地区の皆さまにも感謝申し上げます。ありがとうございました。

3 閉会

<次回の日程について>

委員長と調整の上、後日、連絡を行います。

<プランの修正について>

事務局での検討内容を委員長と調整を行い、一部の文言の修正を行うこととし、緑区連合自治会長会会長の挨拶文については、広報よこはま みどり区版に掲載することとしました。